

2025年度 前期 在宅看護学講座

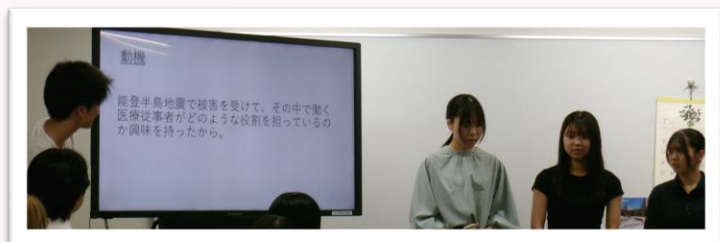
1年生

【トピックゼミ I】

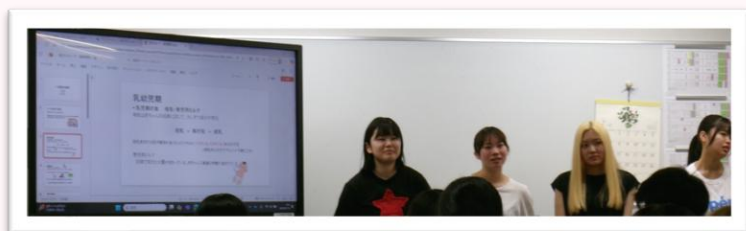
看護関連領域に関するテーマを設定し、課題を見つけ、意見交換を行いました
ゼミの最終回では検討した内容を自分たちの言葉で発表し、質疑応答も行いました

～最終発表会～

災害時の医療従事者の役割



一生涯の食事

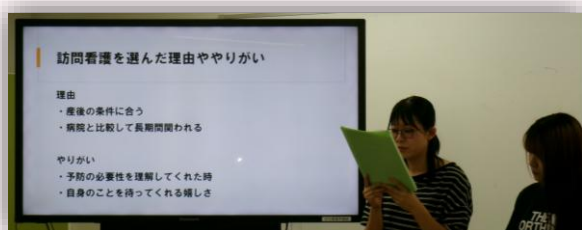


看護職について



【キャリア体験実習】

様々な場で働く看護師を見学し、その役割や看護師の多様性への理解を深めました
訪問看護ステーション3か所・病院1か所での3日間の実習を行った後、学びを共有しました



～学生の学びより～

- ・グループ内で自分の意見を言う大切さや、自ら問題に対する解決策を考えることの重要性を感じた。
- ・看護師は病院で働いているイメージがあったが、DMAT、JMATや訪問看護師の存在と役割を知ることができた。
- ・患者中心のケアの実践に向け、その人の人生の「ものがたり」を知るためにまず患者さんと会話することが大切だと考えた。
- ・大学4年間での様々な経験や学びをもとに自身のキャリアについて考え続けていきたい。



2025年度 前期 在宅看護学講座

2年生

【トピックゼミⅢ】災害について調べてみよう



「災害」に関して興味のある課題を設定し、その課題について検討しました
ゼミの最終回では検討した内容を自分たちの言葉で発表し、質疑応答も行いました

～最終発表会～

災害が発生してから復興に至るまでの看護師と保健師の役割と被災地の人との関わり

◎活動内容

超急性期(0～72時間以内)

- ・被害状況の把握
- ・施設内にいる全ての人に情報伝達
- ・使用できる医療機器、医療材料、薬品・薬を確認し、提供可能な医療活動を確認
- ・避難を要する場合の経路や避難場所を決定(安全確保)
- ・災害対策本部と連携して、院内のライフラインの状況を確認
- ・トリアージにより体制を整える
- ・マンパワーが足りているか確認

亜急性期(急性期後～約1か月)

- ・経路別感染対策を実施
- ・二次災害による被害の拡大を防止するため、自施設の環境を整理
- ・患者の容態・施設状況により、他施設への転院調整を行う
- ・衛生物品・薬品等、必要物品が不足なく供給されるよう調整する
- ・職員の心のケアを実施
- ・人的資源を評価し、ボランティア導入を検討する。



雪による災害について

看護職として何ができるか！

- ①光を取り入れる(精神面のケア)
- ②室内でもできる運動を
- ③暖房と衣類で温度管理(冷え防止)
- ④冬季も水分摂取を促す(脱水防止)
- ⑤運動施設などに簡単に移動できる手段を整え、冬でも運動する機会を促す(保健師などが中心)
- ⑥地域の銭湯や料理教室をはじめとした地域活動を活発にし、住民の外出や活動を促す。(保健師中心)
- ⑦健康セミナーを開催して、住民に健康の意識を高めてもらう。



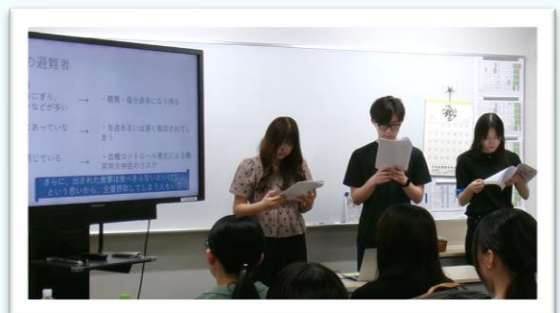
看護職としてできることを考え、実践し
自然環境とうまく付き合っていくことが大切



避難所での食事における糖尿病との向き合い方

被災に備えて糖尿病療養者が 備蓄しておくの良いもの

- ・炭水化物…干しいも、レトルトご飯類
→低糖質、血糖値が上昇しにくい食品
- ・果物…エネルギー調整フルーツ缶詰
→血糖コントロールを維持しやすい水分補給にもつながる
- ・タンパク質…乾燥調理食品、缶詰
→長期保存可能、支給食品の不足栄養が補える
- ・乳製品…牛乳、無糖ヨーグルト
→食後血糖の上昇を緩やかにする
- ・脂質…アーモンド、ピーナッツ
→低糖GIで血糖値が上昇しにくい
- ・野菜…野菜ジュース缶詰
→水分補給と一緒に栄養も摂れる



～学生の学びより～

- ・不安や孤立感は糖尿病の血糖コントロールに加えさらなる問題を引き起こす可能性があり、糖尿病患者に対する精神的サポートが必要である。
- ・寒さが身体面・精神面の健康に影響を及ぼすことが分かり、在宅療養をする方に対する生活環境への助言が重要であると学んだ。
- ・被災地の病院で働く医療従事者も、災害により身体的・精神的ダメージを受けているため、各病院への支援も重要であると感じた。

